

4分野の産業発掘戦略 総論の概要

1. 4分野の意義

4分野は、

21世紀の社会や生活を抜本的に変革し、停滞している
需要の拡大をもたらす可能性が高い領域

我が国が世界的に見て相応の強みを有しており、国際市場での競争力の源泉となる可能性が高い領域

〔 ・日本の国際競争力は1位（89年から3年）
30位（2002年） 〕

2. 産業発掘戦略の意義と視点

産業発掘戦略は、従来の技術開発戦略と異なり、次のような視点の下に作成。

技術開発サイドからではなく、需要面から、まず、新たな社会のイメージを構築

このような社会イメージを実現するための、戦略的な目標を設定

目標を実現する上でのさまざまな課題とその克服のための方法を提示

3. 我が国が目指すべき社会のイメージ

経済の見通しが不透明で、かつ、世界的な規模で競争力の地殻変動がおきているなか、今後我が国が目指すべき社会のイメージとしては、次のようなものが考えられる。

経済成長、雇用の安定、生活の充実の同時達成

国際社会を1歩も2歩もリードする競争力ある貿易産業構造の形成

具体的には、

- ・製品の生産・流通・廃棄など産業活動のあらゆる局面に環境・エネルギー配慮がくみこまれ、それが社会システムとして自立的に回っていく社会
- ・情報の質と量が飛躍的に高まり、知識の入手・共有、発信等が大幅に増大することにより、高齢者などにもやさしい豊かな国民生活の実現。
- ・人間生活の基本～生きる、食べる、暮らす～が質的に向上する社会
- ・幅ひろい分野で新たな生産プロセスや製造技術、製品機能を生み出すことにより、産業技術のパラダイム転換（第二の産業革命）が実現。

3 . 共通政策課題

上記「目指すべき社会イメージ」に向かうにあたって、以下に示す4分野共通の政策課題について、官民適切な役割分担を図りつつ、重点的に取り組んでいくことが必要。

需要の創出

- (1) モデル実証事業の推進
- (2) 政府調達 of 戦略的活用
- (3) 早期市場化を促す規制改革

研究開発段階

- (1) 公的支援の充実
- (2) 産学官連携の推進
- (3) 人材の育成と人材の流動化の促進

実用化段階

- (1) 知的財産戦略の推進
- (2) 国際標準化の推進
- (3) 循環型社会構築に資する規格（環境 JIS）の策定
- (4) 産業再編及び創業・新規事業支援のための環境整備